

# 自立活動だより 第1号

令和4年5月 長崎県立長崎特別支援学校 自立活動

新年度が始まり、ひと月が経過しました。子どもたちは新しい環境に慣れ、昨年までに身に付けた力を発揮してきています。

さて、昨年度の第1号では、自立活動の目標を設定する際に「本人・保護者の願い」が大きく関わるというお話をさせていただきました。今年度の第1号では、このことについて、もう少し掘り下げたいと思います。

## 1 「本人・保護者の願い」

ご家庭をはじめ、医療や福祉など、関係機関と学校が連携し、一貫した指導・支援を行うために「個別の教育支援計画」を作成しています。その中の「本人・保護者の願い」の達成をめざし、関係機関と連携します。どのような力を身に付ける必要があるか、その過程でどのような段階を経るのか、どのような補装具(車椅子、座位保持椅子、短下肢装具など)が必要になるか、身体の状態によってどのような動作に配慮しなければならないか、生活場面へどのように般化させるかなどを関係機関と連携しながら考えていくことになります。

## 2 自立活動の視点

「本人・保護者の願い」は、たくさんある実態の中から、一年間を通して解決する課題を選択していく際の大切な視点になります。「〇〇ができたらいいな」「△△ができるようになってほしいな」ということや、何気ない生活の中で困っていることなど、「できるだけ具体的な場面」をお伝えいただくと、生活につなげることのできる課題の選択につながります。

### <具体例>

「家族みんなでテーブルを囲んで食事がしたい」、「人混みが多い商業施設に連れていきたい」、「とれる姿勢が限られているので身体の変形が心配」、「成長に伴い、抱えて移動することがきつくなってきた」など

このような情報を提供していただくと、どのような力が必要か、そのために現段階では何が課題になるか、どのような補装具を活用する必要があるかを考えるヒントになります。些細なことでも結構ですので、日常で思われることがあればぜひ教えてください。



## 3 補装具について

学校や生活で重要になるのが補装具です。座位保持椅子や短下肢装具等の補装具は、自分一人で頑張ることが難しいことを補助してくれる大切な道具です。短下肢装具に関しては、姿勢保持の手助けだけでなく、足首の変形・拘縮を予防するためにも役立ちます。これらの補装具も「願い」や「目的」に応じて購入したり、部品を調整したりしなければなりません。また、「願い」や「将来想像する生活場面」から逆算して必要な補装具や部品を検討し、調整する必要があります。例えば、「先々では、リビングにあるテーブルの椅子に座れるようになってほしい。」という願いがある場合、腰ベルト、胸ベルトがある座位保持椅子に座ることからはじめ、少しずつ補助を外していくなど、目的やねらいをもって意図的に補助を調整することが必要です。



補助量が多い椅子

補助量を減らした椅子

「具体的な願い」を教えていただくと、指導はもちろん、補装具を検討・調整する際の重要な視点になります。来週から面談が始まりますので、現在お考えのことがあれば、ぜひ担任へお伝えください。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

自立活動部〔貝本・井上・小崎・荒木〕